

與_二姪盛_一 (一)

令和六年五月

(担当 哲彦 高木 武田 繁子)

自_二盛也之歸_一、我閉_レ戸不_レ出、晨夜孜々、欲_二以補_一春來緩慢之課業、今已終_二上下經_一、而且及_二上象下象之傳_一矣、

読み

盛也の帰るより、我は戸を閉じて出_いず。晨夜孜々として以て春來緩慢の課業を補はんと欲す。周易は今已(?)に上下經を終え、且に上_{じよう}象_{たん}下_{かたん}象の傳に及ばんとすかな。

言葉

晨夜_二シンヤ_一 朝早くから夜遅くまで 孜々_二シンシ_一 努めるいそしむ

春來_二シンライ_一 春からこのかた 象_二タン_一 象辞を解説したもの

周易(しゅうえき) は易經に記された、爻_{こう}辞_じ、卦_け辞_じ、卦_け画_がに基づいた占術

訳

盛也が帰ってから、私は戸を閉じ外出しなかった。朝早くから夜遅くまで、春から怠っている課業を補いたいと望んだ。周易は今已(?)に上下經を終わりに上象下象の傳に達した。

疇昔轉居之議、固非_地如_二俗儒_一欲_レ占_二便地_一張_中門戸_上之意_美也、

読み

疇_{ちゆう}昔_{せき}轉居之議、固より俗儒の如く便地を占め門戸を張らんとするの意に有らざるなり

言葉

疇昔_二チュウセキ_一 過日 張門戸_二モンコ_一をはる ①住居を立派にして見栄をはる。

訳

過日の轉居のことは、俗儒のように便利な地に立派な家を持ちたいということではない。

然而私念計較亦不_レ免矣、而今事罷意定、專_二精讀書_一、然後憂_二道之念_一日益切、

読み

然れども、私_{しかる}念_{のち}計較亦免れざるかな。而して今事罷意定めり、精讀書を専らにして、然_{しかる}後_{のち}道を憂うの念いは日ますます切

言葉

然而〓しかれども、「それにもかかわらず」

計較〓ケイコウ はかりごと 罷〓ヒ やめる 然後〓それから

訳

そうではあるが、私の考をしりぞけることはできない。今の時勢を考えると、やめることを決心して、精讀書に努める。それからは、道を求める思い日に日に強くなっている

而不暇復爲身家之圖也、伯兄意更何如、盛也汝能可體我之志也、

読み

而して復た身家之圖をなすの暇あらずなり。伯兄の意更に何如いかん。盛もお前は十分に私の志をのみこみ身につけていくのだ。

言葉

身家〓シンカ 自分の体と家族 本人とその家 不暇〓「……するにいとまあらず」

圖〓はかりごと、計画

何如〓イカン どうであるか問う

訳

また自分の家の計画を為す暇はない。兄はどのように思っているのか。盛也は私の思いをよく身につけていってほしい。